

# 低侵襲なストリッピング手術を目指して

ーベインストリッパを用いた内翻法の工夫ー

高崎ハートホスピタル 心臓血管外科  
川谷洋平、山崎元成



一般社団法人日本脈管学会  
Japanese College of Angiology

【様式1-A】

## 日本脈管学会 COIの開示

発表者氏名： **川谷洋平**

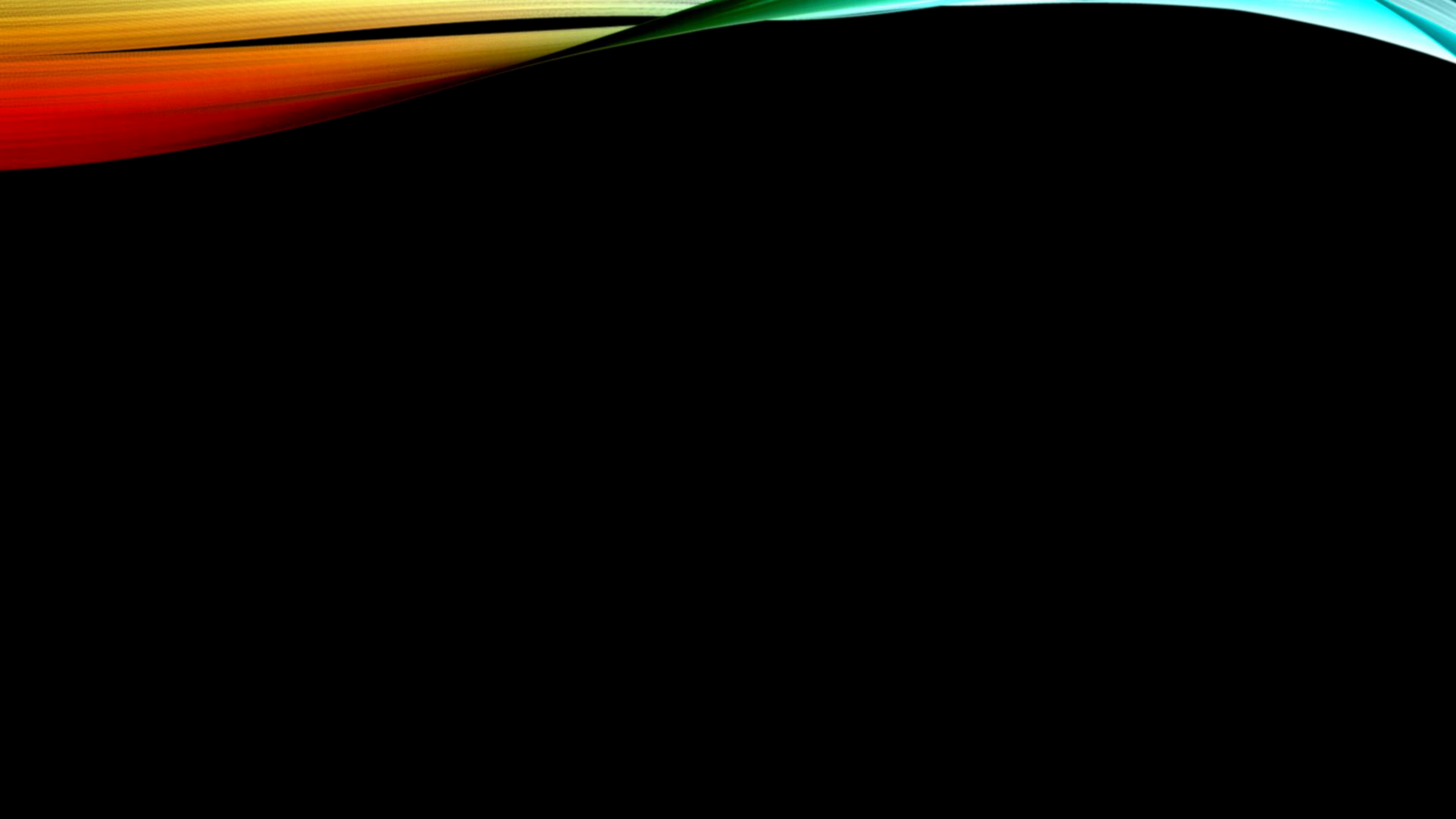
演題発表に際し、発表者らに  
開示すべきCOIはありません。

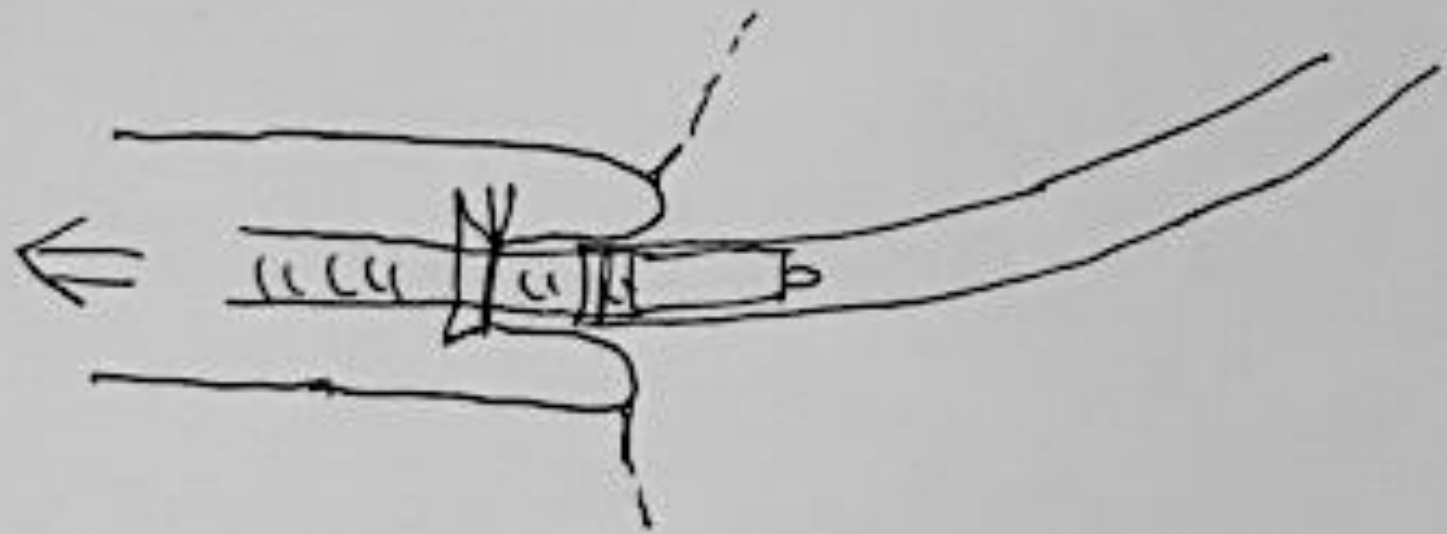
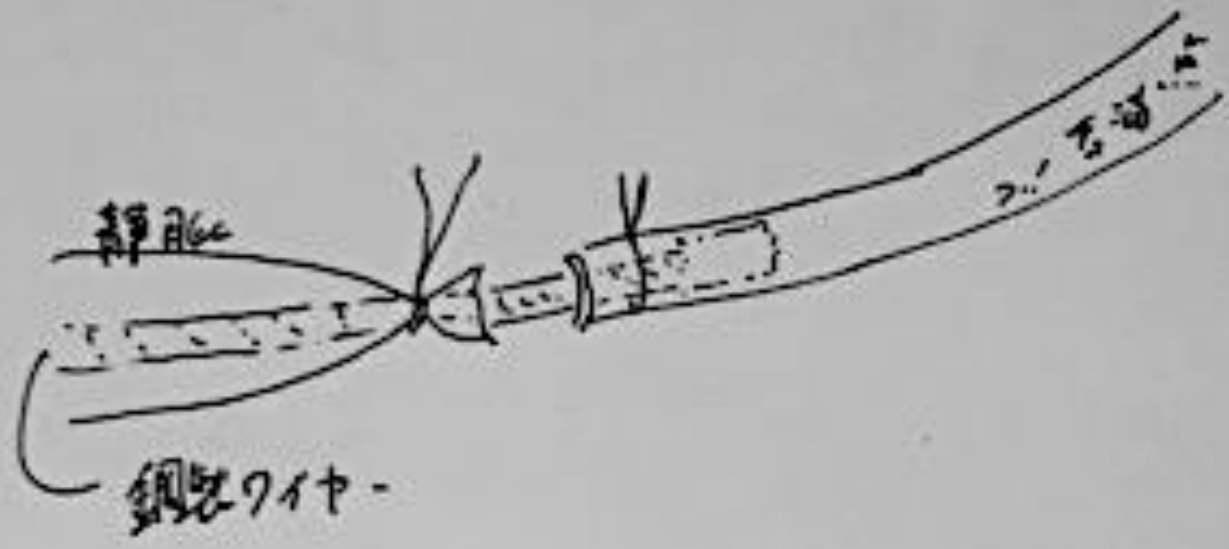
# 背景

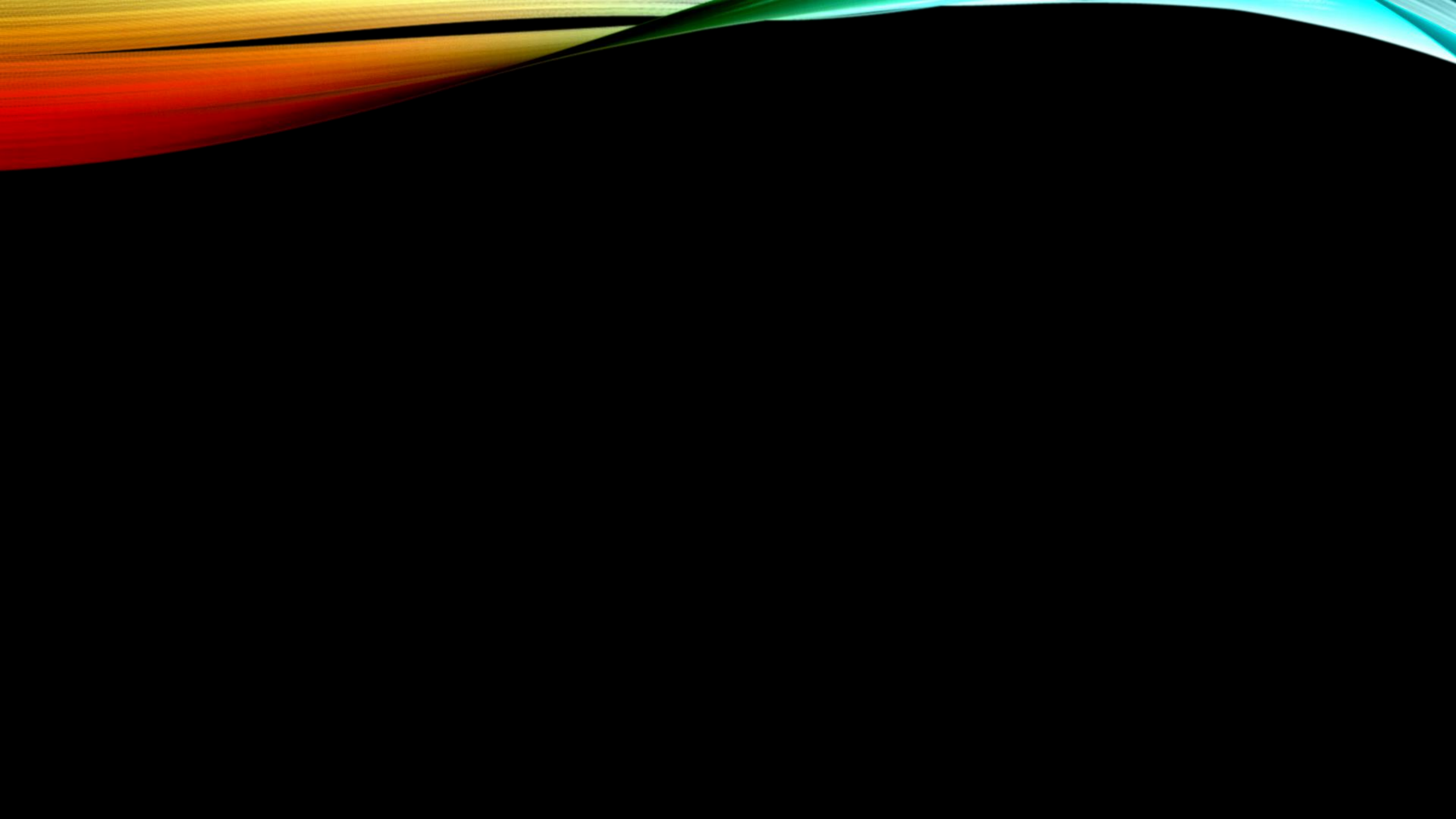
- 下肢静脈瘤に対する手術として、血管内焼灼術が普及し、第一選択の術式となった現在でも、ストリッピング手術は重要な術式である。
- 静脈抜去の方法、麻酔方法にGolden standardとされる方法はなく、各施設で工夫がなされている。
- 当院での手術・麻酔方法を提示し、より低侵襲、安全、患者満足度の高いストリッピング手術の方法について考察する。

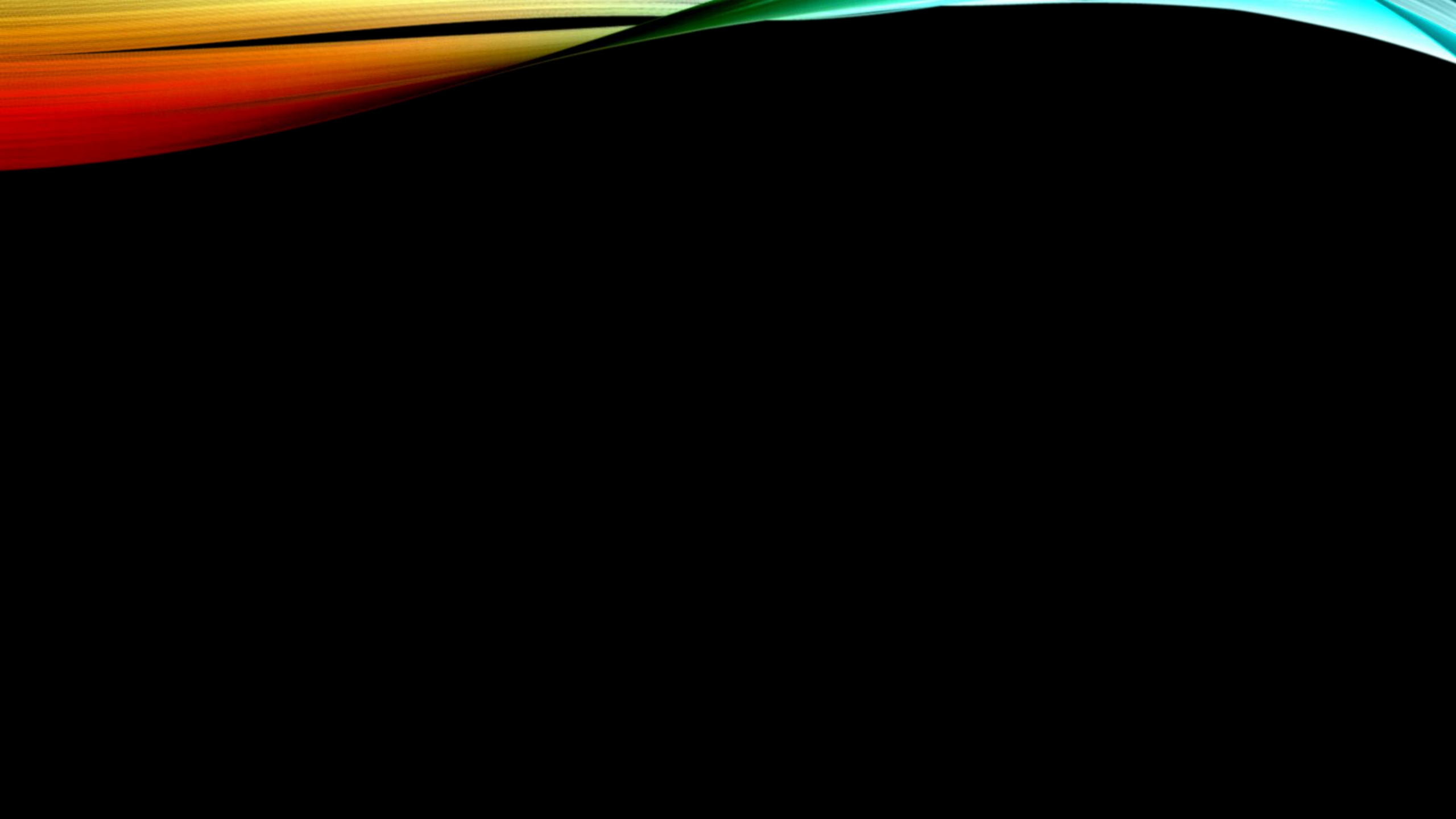
# 麻酔・手術方法

- TLA麻酔により手術を行う(症例により鎮静薬を併用する)
- 特別に希望があった場合には全身麻酔も可能である
- 鋼製ワイヤーと点滴チューブを組み合わせてストリッピングする
- 内翻法にて抜去する
- 抜去後に皮下トンネル内にTLA麻酔液を注射することができる











# 考察

- 本術式は以下の点で有用であると考えられた
  1. 内翻法により抜去することで組織損傷が小さい<sup>1)</sup>  
特に伏在神経に対する損傷が起こりにくい
  2. 従来から行われているストリッピング術である“Babcock法”に比べて小切開で手術可能である
  3. 抜去後に皮下トンネル内にTLA麻酔液を注射することができる
  4. 局所麻酔の変法であるTLA麻酔を選択することで全身麻酔・腰椎麻酔よりも術後鎮痛・止血の面で有利である